

事例3 相手船に気付いていたが、継続的な見張りを行っていなかった場合

航行中、魚群探索を行い、相手船に対する継続的な見張りを行わずに衝突

概要：A船は船長Aが1人で乗り組み、釣り客3人を乗せて航行中、
B船は船長Bが1人で乗り組み、釣り客4人を乗せて錨泊中、両船が衝突した。
A船：船首部に擦過傷、死傷者なし
B船：左舷中央部外板及び操舵室左舷側に破口、釣り客4人及び船長が負傷（頸椎及び腰部捻挫等）

A船 遊漁船
6.6トン 航行中

B船 遊漁船
4.5トン 錨泊中

船長Aは、約12~13ノットの速力で釣り場に向けて航行中、レーダーでB船を探知した

船長Bは、釣り場に向けて西進中、双眼鏡でA船を視認し、A船がB船の方に向かってきていることに気付いた

船長Aは、B船まで1海里以上の距離があったので、魚群探知機の画面に映り始めた魚群の映像を見ながら、約3ノットの速力で東進した

船長Bは、A船はふだん見かける遊漁船であり、B船が向かう釣り場は遊漁船等が集まる場所なので、同じ釣り場に向かうのだと思った

船長Aは、2か所の釣り場で魚群が見当たらなかったため、早く釣り場を見つけようと思っていた

B船は、間もなく釣り場に到着し、船首をほぼ北西方に向けて機関を中立にして錨泊した

船長Bは、A船の動向を確認しなかった

船長Aは、そろそろB船に近づく頃だと思い、船首方を見るとB船が至近にいたので急いで機関を全速力後進とした

船長Bは、錨泊中であることを示す黒色球形の形象物を掲げていなかった

船長Bは、操舵室の右舷側で、浮きを海面に浮かべて潮流の状況を確認していた

天気：晴れ 風向：北西
風速：約2m/s
視界良好 海上：平穏

A船の船首部と
B船の左舷中央部とが
衝突

7月27日
14時55分ごろ

航行中の見張りは適切に
錨泊中は法定の形象物を掲げましょう
また、接近してくる他船を認めるときは、継続的にその動向を確認しましょう



再発防止に向けて（事故防止策）

- ・ 魚群探索を行いながら航行する際は、適切な見張りの妨げとならないように注意すること
- ・ 錨泊中であっても周囲の見張りを行うこと

本事例の調査報告書は当委員会ホームページで公表しております。（平成24(2012)年9月28日公表）

http://www.mlit.go.jp/jtsb/ship/rep-acci/2012/MA2012-9-24_2010kb0154.pdf